

2016/07/09

## 2016 OP海外セミナー スウェーデン・マルメ研修 感想文

OPひるま歯科矯正歯科 院長：晝間康明

私自身のマルメ研修参加は2回目であり、初参加は2007年9月でした。

第1回マルメ研修ではカリオグラムを開発されたダグラス・ブラッター先生がご存命の時から熊谷先生と企画され、開催前年にブラッター教授は亡くなられてしまったものの現教授のダン・エリクソン先生が同じ志を持ち引き継がれ開催されたセミナーでした。当時から熊谷先生は一貫してスウェーデンの歯科医療哲学を日本の歯科医師に伝えるためのセミナーとしてマルメ研修の意義、構成を考えて下さり、私だけでなく当時の受講者全員の胸にその想いは深く突き刺さりました。当時の講義では現在のスウェーデン歯科医療の基本を築き私たちにMTMの考え方を示していただいた故ボー・クラッセ先生の御講演も聴かせていただく事が出来ました。ボー・クラッセ先生は1960年代FitgeraldとKeyesがう蝕は感染症であることを明らかにした後、1970年にこれまでの対症療法的な歯科医療であったスウェーデンの歯科医療を感染症のリスクに対するリスクアセスメントを中心とした歯科医療への改革を行ってきました。先生は当時を振り返り、「診療の際に保存不可と診断した歯を1日10本もで抜いて腕がへトへトになったこともあった。そんな歯科医療をリスクアセスメント中心の歯科医療に変える事は車を左側通行から右側通行にするくらい大変だった」とお話ししていただいた事が強く印象に残っています。熊谷先生と出会って歯を守る覚悟を決めた後、その覚悟の先にあるものを明確にしてくれた僕の歯科人生のターニングポイントとなるセミナーが第1回目のマルメ研修でした。

第1回目のマルメ研修から帰国し、全ての患者さんに対してMTMを行い、診療室も個室診療室を増設、その後に開催されたOPセミナーもほとんど参加し、少しずつ患者さんの歯を健康に守れるように変化し成長を実感するものの、メンテナンスをしても守れない歯や、メンテナンスを中断してしまう方がいて、本当に歯を守る歯科医療が提供できているのか自分たちの力に不甲斐なさを感じながらの9年間でもありました。その不甲斐なさを突き詰めていくと、MTM、カリオグラムやOHISなどのリスクアセスメントツール、効率の良い診療システム、OPセミナーで受講した内容の表面的な理解の蓄積によるものが原因と気づく事が出来ました。つまりは本当に歯を守るための歯科医療の真髄を理解

OPひるま歯科矯正歯科 晝間康明  
hoo\_hiruma@mac.com

2016/07/09

していない事が原因である事、歯科医療哲学を理解する事、理解しようと努力する事が最も重要だと言う事に改めて気がつく事が出来ました。そんな思いとMTMを実践したからこそ見えてきた問題を抱えて参加した2016年のマルメ研修は私にとって大きな気づきを与えてくれるものでした。

マルメ研修2016で私が感じたスウェーデン歯科医療の哲学は、口腔の健康から全身の健康を守り国民の生涯を豊かにしようとしている事、そのために国民から預かった税金をより効果の高いシステムに投資するために批判的な吟味を繰り返し常に新しい課題を見つけ改善し成長し続けるあるべき歯科医療の姿でした。改めてスウェーデンのあるべき歯科医療にふれ、今の私たちの医院に足りない事は何かが見えてきました。

全ての人に口腔の健康から全身の健康を提供する事があるべき歯科医療のはずなのに、私たちは自分の医院に来られる患者さんのことだけしか考えられず、自分の診療所の力量範囲の中でしか考える事が出来ませんでした。そのため、歯に対する価値観を共有できる患者さんには私たちの医療が理解していただけで結果も出るのですが、そうではない患者さんにはあるべき歯科医療の都合の良い部分だけ理解し、結果従来の歯科医療に戻ってしまい数年後には徐々に悪化してしまいます。これは患者が日本の従来の歯科医療を受け教育されたために起きる事で、患者の考えをあるべき歯科医療に適したものに変わるためには歯の価値教育を徹底しなければならない事、社会全体があるべき歯科医療に適したものに変わらなければならないのです。しかし、スウェーデンの様な民主社会主義国にくらべ民主主義資本主義の日本では社会全体をあるべき歯科医療に変えるために法整備や行政を待っていてもいつまでも変える事は出来ないとも感じました。出来ないから諦めるのではなく民間からあるべき医療の結果を出し、国民にその利益を実感してもらい、国を動かす覚悟をしていかなければならないのです。熊谷先生のこれまでのご活動により、あるべき歯科医療を実現するための灯火は灯り始めていますので、私たちはその灯火をさらに大きな紅蓮の炎に変え日本全体を巻き込んでいかなければならないと強く感じました。スウェーデン・マルメ研修を二度に渡り受けさせていただいた事でなすべき事を見つめ直し明確にする事が出来ました。この研修は私の歯科人生のターニングポイントであり原点です。

2016/07/09

この様な研修を開催していただいた熊谷先生，マルメ大学の皆様，その他にも協力していただいた皆様に深く深く感謝致します。